

都市再生整備計画

いなづさぼうさいきよてん
稲梓防災拠点地区

しずおか しもだし
静岡県 下田市

令和6年1月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	<input checked="" type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input type="checkbox"/>

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	静岡県	市町村名	しもだ 下田市	地区名	いなずまぼうさいきよてん 稲梓防災拠点地区	面積	55 ha
計画期間	令和 6 年度 ~ 令和 10 年度	交付期間	令和 6 年度 ~ 令和 10 年度				

目標
 大目標：稲梓地域における防災拠点と地域の醸成でまちの強化を図る
 目標1：地区のコミュニティと防災機能を高める
 目標2：伊豆賀茂地域の中心となる稲梓地域にて広域交流と防災機能の場として強化する

目標設定の根拠
 まちづくりの経緯及び現況
 下田市は、海岸線を有しており、南海トラフ大地震では、市街地含む海岸線が津波浸水想定区域となっている。そのため、下田市都市計画マスタープラン(平成27年度策定)の都市防災・復興の方針にて、現在建設中の伊豆縦貫自動車道インターチェンジ付近に防災活動の拠点(災害対策本部施設や応急復旧活動等の拠点)となる場所を災害の態様に応じて適切に対処できるように複数確保することを基本として、都市防災方針図では、2つの防災拠点を位置づけている。一つは、市街地近くの高台を防災拠点(敷根地区)とし、一つは、内陸部に位置する稲梓防災拠点である。
 稲梓防災拠点地区(以下、「当地区」という。)は、稲梓地域の中心である国道414号と現在建設中の伊豆縦貫自動車道(仮称)須原インターチェンジと(仮称)下田北インターチェンジが位置しており、将来は、地域のみならず、観光客等の交流人口の新たな玄関口として重要となる地区である。
 当地区は、年々人口が減少しており、地域コミュニティの衰退による、防災における共助の衰退が懸念されており、災害時のためにも、日常において、地域コミュニティの醸成が図られるような地域づくりが必要となっている。
 当地区に計画されている(仮称)下田北インターチェンジ周辺は、伊豆半島の西海岸へは主要地方道県道下田松崎線が走っており、東海岸へは現在県事業で建設中の県道下田松崎線が整備中であり、伊豆半島南部の中心としても、今後平時、災害時において重要となる。
 当地区で建設されている伊豆縦貫自動車道は、「命の道」として、静岡県東部地域道路啓開基本方針(令和4年3月)では、伊豆縦貫自動車道を中心とした東部地域版のくしの歯作戦の軸となり、防災拠点として稲梓地域の箕作がふさわしいとされている。
 また、当地区は、南海トラフ大地震において想定される津波浸水区域域外の内陸部に位置しており、当市にある浸水区域となる市街地高台にある防災拠点(敷根地区)と伊豆縦貫自動車道で結ばれており、防災機能を補完しあうことができる。

なお現在、下田市事前復興まちづくり計画を策定しており、市域全体で、防災意識の向上と機能強化を図っている。

課題
 ・人口減少による地域コミュニティの衰退を防ぐため、災害時の共助にも繋がる地域コミュニティを図るための場づくりが求められている。
 ・伊豆賀茂地域の中心・玄関口となる本地区の広域交流・広域防災機能を高めることが求められている。

将来ビジョン(中長期)
 ①下田市都市計画マスタープラン(2016-2042)(平成27年度策定)
【都市防災・復興の方針】
 都市整備等による災害に負けないまちづくりを進める
 ・災害時に備えた体制(防災拠点、緊急輸送路、避難路、避難場所等)をつくり、災害後も市民が安心して過ごすことができる環境を準備する。
 ・災害発生時、広域的な支援活動に対応できるよう、伊豆縦貫自動車道の整備に伴い発生する建設発生土を活用した造成を検討しつつ、インターチェンジ付近に防災活動の拠点(災害対策本部施設や応急復旧活動等の拠点)となる場所を災害の態様に応じて適切に対処できるように複数確保する。
 市民の協力による防災体制を強化する
 ・災害時に円滑な避難ができるよう、自助、共助、公助により防災体制を強化する。
 ・平時は自主防災活動の拠点、非常時は救援活動の拠点となるコミュニティ防災センター等の設置を進める。
 地域で相互に助け合えるよう、コミュニティを充実する
 ・被災者の孤立化を防ぎ、地域で協力して生活が送れるように、日頃から地域のつながりを強くする。

都市再生整備計画事業の計画 ※都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金、防災・安全交付金)において、以下の項目が該当する場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

都市のコンパクト化の方針 ※都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金、防災・安全交付金)の施行地区要件において、観光等地域資源活用支援型もしくは防災拠点・郊外支援型を適用する場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。
 ・下田市立地適正化計画(令和4年度策定)における、立地適正化計画の基本的なまちづくりの方針にて、本地区は既に市の拠点であり、他の拠点と交通ネットワークで結び、都市機能誘導区域と相互補完する地域と位置づけている。
 ・また、下田市都市計画マスタープラン(平成27年度策定)における、将来都市構造にて、本地区は、地域拠点として、地域住民の生活の拠点、地域活動による交流の拠点と位置づけている。

防災拠点整備方針 ※都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。
 ・当市は、海岸線を有し、山に囲まれた地形から様々な災害が想定されることから、地震、津波、土砂災害、風水害などの災害の態様に応じて複数確保することとしている
 ・本地区の防災拠点は、南海トラフ大地震における津波浸水想定区域外となる下田市内陸部の防災拠点として、また、伊豆賀茂地域の中心として、北部からの広域支援を受け入れる前進基地として整備する。
 ・災害時に、緊急車両を配置できる駐車場、広場等、地域コミュニティ、広域交流にも活用でき、災害時には、基地局となる支援センター等を整備する。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
防災訓練実施数	回/年	箕作区、須原1区、須原2区における年間防災訓練実施回数	防災拠点の整備により防災意識が向上、訓練実施に繋がる。	6回/年	R4年度	9回/年	R10年度
施設に滞留している人の数	人/6時間(休日)	整備した施設で滞留している人の人数(9時~15時)	コミュニティの醸成により交流拠点到滞する人の数が増加する。	0人/6時間(休日)	R4年度	20人/6時間(休日)	R10年度

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【地区のコミュニティと防災機能を高める】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民が集い、災害時には一時避難場所になる広場を確保する 	<p>【基幹事業】(地域生活基盤施設 広場) 箕作広場整備事業 【基幹事業】(高質空間形成施設 障害者誘導施設等) 箕作広場公衆トイレ 【提案事業】(事業活用調査) 事業効果分析調査</p>
<p>【伊豆賀茂地域の中心となる稲梓地域にて広域交流と防災機能の場として強化する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域的な防災拠点に必要な面積を確保する ・広域交流に適した空間整備を行う ・周辺の里山風景と調和した和む空間形成を行う ・地域の医療と防災の連携強化を行う 	<p>【基幹事業】(地域生活基盤施設 地域防災施設) 稲梓防災拠点整備事業 【提案事業】(地域創造支援事業) 地域資源活用事業</p>
<p>その他</p>	

